



公式サイト

柳川市民文化会館

【開館時間】午前9時～午後10時、月曜休館
【問い合わせ】☎73・7777

水都やながわ information



プロの司会者が「自信を持って話せる自分になる」コツを伝授

伝える・伝わる「話し方講座」受講生募集

6月6日
申込開始

司会者やラジオパーソナリティとして活躍中の倉富 顕子さんを講師に、話し方講座を開催します。仕事や地域活動の中で自信が持てたり、仲間や家族と楽しく話せたりする話し方の基本を学ぶ講座です。この機会に一步踏み出してみませんか。

●日時 7月9日(火)、11日(木)、20日(土)、25日(木)、30日(火)、8月8日(木)、10日(土)、12日(月・祝)、20日(火)、27日(火) 午後7時～8時30分(全10回、講師の都合により日程変更あり)

●対象 高校生以上

●定員 20人(申込多数の場合は抽選)

●受講料 1万円(10回分、資料代を含む)

※7月9日(火)に10回分を支払い。途中で欠席する回があっても、返金はありません。

●申込期間 6月6日(木)～20日(木)

●申込方法 市民文化会館へ電話で申し込み



講師紹介

倉富 顕子 さん

式典・イベント・歌謡ステージなどの司会者として活動。現在、パーソナリティとしてKBCラジオ「艶歌につぼん」を担当中。

ロビーのピアノは誰でも自由に演奏可能

ストリートピアノを弾いてみませんか

市民文化会館には、受け付けすると誰でも自由に弾くことができるストリートピアノがあるのを知っていますか。ピアノは、旧市民会館の開館当初から閉館まで約50年にわた

り設置され、市民に愛されていたもの。令和3年に市内初のストリートピアノとしてよみがえったものです。演奏が好きな人はもちろん、ピアノを弾いたことない人も、自由に弾いてみませんか。

●利用時間 午前10時～午後6時

●利用方法・利用料金 市民文化会館事務室で受け付け。1人(組)あたり20分以内。無料

クラシックピアニストの
近藤由貴さんも演奏

suito 定例イベント

詳しくは、同館の公式サイトで確認できます。

第3木曜 リトミックひろば

●日時・料金・講師 6月20日(木) ①午前10時～②午前11時～(各40分)、1組500円、CHIAKI

第3金曜 ロビーコンサート

●日時・料金・出演 6月21日(金) 午後7時～(約60分)、無料、福地かおる(ヴァイオリン)、北島恵美(ピアノ)

新 市史抄片

No.197

【問】市生涯学習課市史編さん係 (☎72・1275)

沖端村の素封家 山本安次郎

古文書館 中川 晃一



図1 山本安次郎肖像

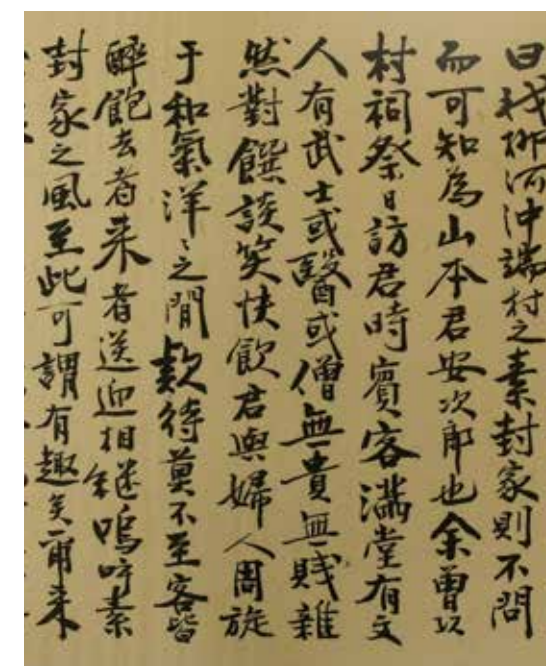


図2 にぎやかな安次郎宅の様子を記す

山本安次郎(1862～?、図1)は、近代の沖端を代表する素封家(もほうか)の一人です。素封家とは、財産をたくさん持っている人という意味ですが、安次郎は単なる素封家ではなく、沖端を中心に地域の発展のため、私財を投じた人物。長らく政治家としても活躍しました。

安次郎は、明治7(1874)年に間中等科(現在の昭代第一小学校)を卒業したところから、その優秀な成績で「郷土の明星」と期待されました。明治19年には沖端村会議員に当選し、以後50年以上にわたり当選を重ねます。明治25年2月から32年8月までは沖端村助役(現在の副市長)、明治44年12月から大正8(1919)年12月までは沖端村村長、大正12年9月からは山門郡選出の福岡県会議員、昭和11(1936)年5月から翌年2月まで再び沖端村村長を務めました。

安次郎は、政治家として福祉や教育にも力を注ぎつつ、沖端の主産業の漁業の振興にも尽力しました。明治33年、安次郎は韓海出漁奨励会を設立します。韓海出漁とは、当時の日本で盛んだった朝鮮半島への出漁のことです。明治30年代に入った頃から、沖端の漁師たちも船団を組んで朝鮮半島へ出漁するようになります。この奨励会設立の同年に、安次郎は沖端銀行を設立して初代頭

取に就任。これは、漁師たちへ韓海出漁の費用を融資することが目的の一つだったと考えられます。

また、安次郎は、明治43年に沖端魚市場を設立。魚市場では、漁師が代わる代わる出入りして有明海の新鮮な魚介類が運ばれ、県下でも有数の魚市場となりました。ここから有明海の海産物は、九州各地に出荷されていきました。さらに同年には、不作が続いていたアゲマキの実験場(現在の福岡県水産海洋技術センター有明海研究所)を沖端に誘致することにも成功しています。

こうした功績により、昭和13年の自治制発布50周年で、安次郎は自治功労者として表彰を受けました。この表彰を受けたのは、福岡県内で10人、山門郡からは安次郎が唯一の受表彰者でした。

安次郎の人柄を物語る史料は少ないですが、温厚で人望がある人物だったといわれます。また、柳川の漢学者・横地尚綱(よこち しょうこう)は、沖端村での祭礼の際に訪れた安次郎宅について、さまざまな階層の人々が談笑して酒を飲み、とてもにぎやかで、絶え間なく人が出入りしていることを記しています(図2)。安次郎はこうした多様な人々と接することで人々の考えを把握し、地域の発展に活かしていたのではないのでしょうか。

※表記は広報紙のルールで統一しています。